

令和 2 年度 ACTR

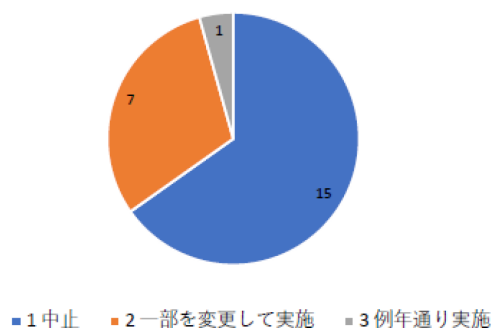
分類 番号	A2	取組 名称	地域文化財を活用した山間地区コミュニティの維持方策の研究
研究代表者所属・職名：		文学部・准教授	氏名： 上杉 和央
研究担当者：			
京都府立大学（東昇、川瀬貴也、鈴木暁子（敬称略）） 外部分担者・協力者（中村治氏、和田純一、村上佳代氏 ほか）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
京都府京都市左京区、北区雲ヶ畑地区			
【研究活動の要約】			
3 年計画の 2 年目の今年度は、雲ヶ畑地区に関する写真資料などを報告書にまとめるとともに、コロナが伝統行事やコミュニティに与えた影響についてアンケート調査を実施するとともに、京都市内の新たな地域行事によってコミュニティの場づくりを実践されている左京区の活き活き市民活動センターへのヒアリング、および地域文化財の活用をコミュニティ維持につなげている先行事例として長野県松本市へのヒアリング（オンライン）をおこなうことで、山間地区コミュニティの維持方策のアイデアを収集してきました。			
【研究活動の成果】			
雲ヶ畑地区に関する報告書では、ひと昔前の地域の暮らしぶりや出来事をするのできる地域に残る写真資料を集めて紹介しています。写真は、地域コミュニティや行事を知る重要な資料です。 左京区の伝統行事（指定文化財）の保存会へのアンケート調査では、多くの伝統行事がコロナの影響をうけて中止や内容の一部変更となったことがわかりました。保存会内でさまざまに意見交換をして、苦渋の決断をされた団体が多かったようです。思わぬ外的要因からではありますが、伝統行事がこうした構成員の意見や思いのなかで続けられてきたことが、改めて浮かび上がりました。 また、伝統行事が地域づくりやコミュニティの維持にとって重要であると考えておられる割合が高い一方で、伝統行事を維持する構成員の不足が大きな課題と考えておられる割合も高くなっています。つまり、伝統行事の維持とコミュニティの維持はまさに両輪であって、両方を見据えた方策を検討することの重要性が示されたように思います。			
【研究成果の還元】			
東昇・中村治編『京都府立大学文化遺産叢書第 22 集 あこのろの雲ヶ畑ー京都雲ヶ畑写真資料調査報告ー』（府大図書館で閲覧可）			
【お問い合わせ先】			
文学部 歴史学科 准教授 上杉 和央 Tel: 075-703-5278 E-mail: kuesugi@kpu.ac.jp			

参考（イメージ図、活動写真等）

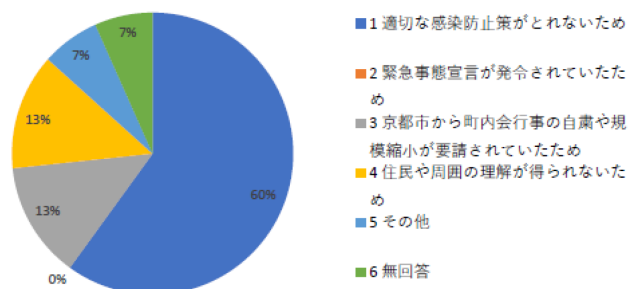
左京区の伝統行事（指定文化財）の保存会 25 団体へのアンケートへの結果（抜粋）

※有効回答数 23

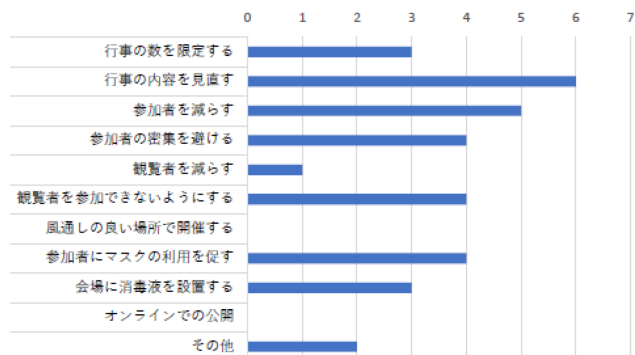
Q1.今年度の保存会の伝統行事の実施状況



Q2-1 中止にした理由



Q3-2 実施するために行った工夫（複数回答可）



Q3-5 変更と決定した際に重視した点（複数回答可）



Q5-4 伝統行事の今後についての意見

